

「第2回 北九州市次期教育プラン検討会議」における主な意見

1 こどもたちのベースづくり

○失敗を恐れず、挑戦して人間性を高めていくのは非常に大事だが、実現は難しい。3～4割のこどもたちは、「自分で考えなさい」と言われても戸惑うという実態があるようだ。考える力や挑戦する力といった基礎部分を育てられる準備をしてほしい。(宮口構成員)

○文系・理系の枠を離れて、問題解決を創造的に話して現場を作るのがSTEAM教育の基本。解答がないものに対して、自ら問いを立てて解決する「デザイン思考力」と、行動して解決する「共創力」が問われている。道筋や知識を与える教育から、こどもたちが自分たちで見つけていく方向にシフトしなければいけない。(鶴見構成員)

○最近、「先生、どうしたらいいですか?」と聞いてくる大学生が多いが、それを考えるのが勉強であり、ここが変わるといいのではないか。(眞鍋座長)

○OSの観点から言えば、体が大事。北九州市では、健康と体力も強みになるのではないか。(友納構成員)

2 こどもの安全・安心

○「安全」は客観的、「安心」は主観的であり、大人が考える「安全」という言葉が、こどもたちにとって「安心」に繋がるような形にしていかなければいけない。(宮口構成員)

3 学校と地域・企業等の連携と役割分担

○世の中が高度化する中では、先生1人だけでは問題解決できない。校長先生を中心にした現場の中に、専門人材が入って先生をサポートするという機構を盛り込んでいく組織改革が必要。長いスパンで校長先生をトップとして特徴のある学校を作っていくと、北九州市の教育が特色あるものになるのではないか。(上田構成員)

○学校を拠点にして、様々な企業も地域も入って、保護者とこどもを支援することが、こどもを真ん中に置くということにつながる。先生と企業・地域をコーディネートする専門人材を配置するということが、組織改革になる。(窪田構成員)

○地域と学校の橋渡し役となり、先生をサポートする立場として、専門人材の役割分担を考えていくことが大事。(泉構成員)

○目の前にある様々な課題を、企業や地域の人、学生たちが教育現場に入って、小学生

と一緒にやっていくSTEAM教育が、非常に新しい教育となる。(鶴見構成員)

○教育で議論できることは、長く変わらない本質的なものをどう育てていくかということとしかない。OSを育てるということになると、公教育だけではなく家庭教育の側面もあると思う。(下岡構成員)

○多様性に対応しようという意気込みが、学校現場から感じ取れる。家庭教育をする暇がない家庭にとっては、学校が担ってくれると助かる部分がある。(友納構成員)

4 企業の視点での指摘

○5つのテーマについては非常によくまとめているが、今の企業から見ると、非常に子どもたちの弱さが目立つ。2040年の頃に「1歩先の価値観」を体現するような人たちが育つには、まず教育機構そのものを大胆に変えていくことが必要ではないか。(上田構成員)

○企業がこの地域に求めている子どもについて、どう考えて育てていけばよいかという視点も入ってもいいのではないか。(上田構成員)

○OSの上に乗っているアプリケーションはどんどん変わるが、OSは大きくは変わらない。OSのパフォーマンスがアプリのパフォーマンスを決めるので、OSを良くしていくとするのは理に適っている。知識や学力というのはアプリケーションの話だが、人によって必要なものが違うし、変わるスピードも速いので、これを先生が全部教えようとするのが難しい。先生たちができるのはOSを育てることで、本質的な人間の力としての教養のような部分だと思う。(下岡構成員)

5 教育プラン全体

○子どもをまんなかに置く、というのは非常に賛同するところであり、これが実現すれば、子どもたちにとっても地域にとっても有益な北九州市になる。(宮口構成員)

○今回のプランは網羅的によくできているが、教職員のウェルビーイングを実現するためには、仕組みや人材を配置していく必要がある。(窪田構成員)

○ミッションの - 6と - 1に横串を刺し、STEAM教育の地域連携という話を膨らませると、北九州市ならではの見せ方が出来そうで、とても面白そうだと思う。(泉構成員)